

こんな活動です

# 「結いの里」大原で、子どもたちと地域の未来をつくる ～「ふるさと」と「つながり」をキーワードに～

|                    |   |                       |                       |                |                        |  |   |
|--------------------|---|-----------------------|-----------------------|----------------|------------------------|--|---|
| 京都府京都市             |   | ●活動名<br>京都大原学院学校運営協議会 |                       |                | ●関係する学校名<br>京都市立大原小中学校 |  |   |
| 協働活動開始年度           | 平成 19 年度  | 学校運営協議会               | 指定・設置日<br>平成19年2月7日指定 | 地域学校協働本部       | 有                      |  |   |
| 活動区分               | 学校支援活動  |                       | 地域課題解決学習              |                | 地域人材育成                 |  |   |
|                    | 地域未来塾   |                       | 放課後子供教室               |                |                        |  |   |
| 統括的な地域学校協働活動推進員等の数 | 配置人数  |                       | 地域学校協働活動推進員等の数        |                | 配置人数                   |  |   |
|                    | —   |                       |                       |                | 14人                    |  |   |
| ボランティアの数           | 延べ登録人数  |                       | 企業・NPO等との連携           |                | ICT機器活用                |  | 有 |
|                    | 102人  |                       | 有                     |                |                        |  |   |
| 参考URL              | <a href="http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=106504">http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=106504</a> |                       |                       |                |                        |  |   |
| ●連絡先               | 京都市教育委員会 生涯学習部  |                       |                       | ☎ 075-251-0456 |                        |  |   |



開設10周年に学院生が描いた壁画が地域の力でトートバッグになりました

●活動の概要・経緯  
京都大原学院(大原小中学校)は、平成21年に開設された施設一体型小中一貫教育校である。学校運営協議会はその3年前に設立され、「新しい学校づくり」が検討された。少子高齢化、若者の流出、過疎化など、地域の課題を、学校を中心として解消していこうと進めてきた。「地域文化の継承」と「地域リーダーづくり」が学校の役割に追加。学校教育目標の「大原のゆとりある心を自信を持って伝えられる子に!」は、大原の「良さ」を見つけ、それを自らの自信として、ふるさと大原を誇れる子にすること。そのためつきたい力である「規律規範意識」「科学的思考」「コミュニケーション力」を、地域の教育資源(地域の自然、施設、産業、人々)を使って身につけさせ、卒業させることが目標になっている。したがって、多くの教育活動を「地域と共に」「地域のために」という理念に基づいて実践しており、また「地域に返す」取組を行ってきた。

## ● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】  
・三千院学習(5年生「地域を知る」学習):この学習は、①地元寺院である三千院での写経・清掃体験、②今は廃校になっている百井分校まで歩く百井登山、③そこでの清掃・地域の方からのお話、④地元産業の草木染め体験を行う。登山には地域の方が付き添い、子どもたちの安全を守る。企画から当日の危機対応まで、学校運営協議会の企画推進委員会が学校と協働して行う。  
・大原提言(9年生が地域の課題解決に向けて提言するもの):9年生が考えた「大原の人口を増やすために」「観光客にやさしい工夫」などのテーマを提言に変えるため、企画推進委員が中間発表での助言や取材協力、報告会に向けて地域への広報活動を行います。報告会后、実現可能な提案は、自治会や観光保勝会で実際に活用する。  
【実施に当たっての工夫】

毎月行われる学校運営協議会理事会で、取組の目的・概要・獲得目標を地域・学校でしっかり確認し、成果を得られるように進めている。常に地域と学校との連携を考え、委員は会議以外でも学校に足を運び、子どもたちの様子を見て、打ち合わせをしていく。

## 【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会から、警察・消防・病院・サポートセンターなど公共施設への協力を依頼し、事故のない活動を行えるようにしている。また、学校行事を最優先にして、観光保勝会や大原里の駅での地域行事の日を考え、それぞれの行事が重ならないように調整している。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・地域を教材にした授業が増えたため、学校に関わる地域の方々が増えた。特にお年寄りの方が学校に関わることで、やりがいや居場所を見出している。大原外に住んでいた人も、「我が子をこの学校に通わせたい」と地域に戻り、学校の人数減の歯止めになった。  
・「大原提言」「大原大掃除」などを見た地域の大人たちが、「子どもたちが頑張っているのだから我々も」と、「大人の提言」や「地域の大人大掃除」が始まった。子どもたちの姿を見て大人たちが行動を起こしている。  
・子どもたちにとっても、地域のありがたさと良さを感じる機会を得て、地域貢献や社会貢献に目を向けられるようになった。

## ● その他

・NPO法人里づくり協会は、ゲストティチャーなどで関わっている。また、本校のハワイ大学交流にも協力していただいている。本校ではICT活用も充実させ、令和2年コロナ禍で休校の際には、7年生以上がオンラインによる学習を行うことができた。



地域文化継承運動会で八朔踊りを踊る



大原提言 地域から学び、地域に返す